

決算報告

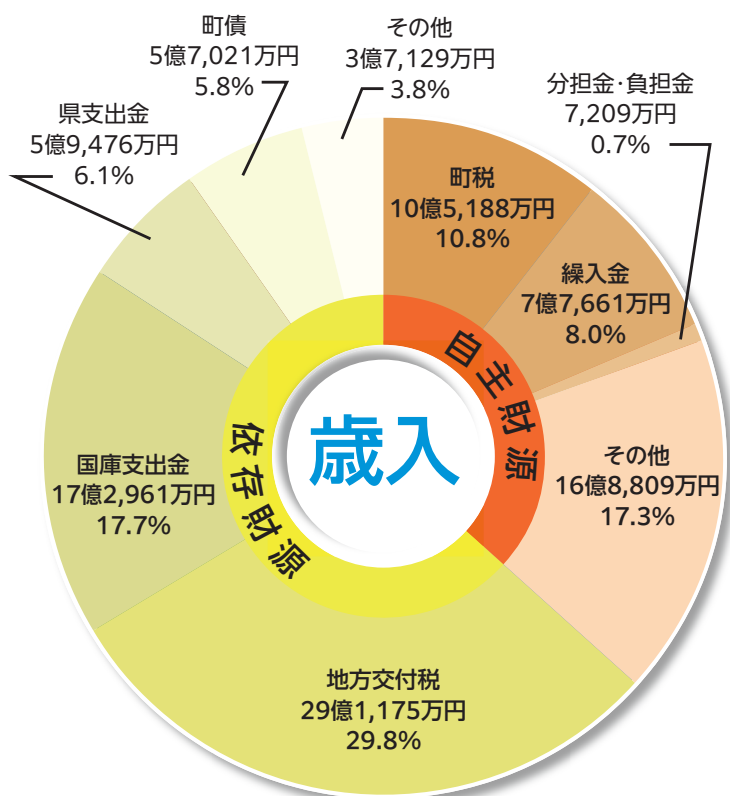
令和4年度決算が9月議会で承認されました。新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）などの影響で、大きな決算規模となりました。町政は、町民の皆さんや企業から納められた税金や、国庫支出金などをもとに運営されています。どのくらいの収入でどのような目的で使ったのか、決算の概要と財政状況をお知らせします。

■歳入
令和4年度一般会計歳入の決算額は、約97億7000万円です。昨年と比較して約1億4000万円の増加となっています。
ふるさと納税は、返礼品の充実や申込サイト数の拡大により、令和3年度

一般会計

歳入

ふるさと納税の増加、税収の確保
ふるさと納税として約13億9000万円の収入がありました。町の収入の大半を占める税収は2・8割増の約10億5000万円となり、その結果、町政の自主性・安定性を判断する自主財源が約55割増加しています。



※「地方財政状況調査」に基づき作成

【歳出項目の説明】

- 民生費……………高齢者福祉や児童福祉、障がい福祉といった福祉事業全般にかかる経費
- 総務費……………町全体の運営に関する経費や、財産の管理にかかる経費
- 公債費……………町の借金である町債を返済するための経費
- 商工費……………商工業や観光の振興にかかる経費
- 土木費……………町道、河川維持や整備にかかる経費
- 教育費……………小・中学校の義務教育にかかる経費や、公民館活動・スポーツ振興（体育）などの社会教育にかかる経費
- 衛生費……………町民の健康のための経費や、ごみ、し尿などの処理にかかる経費
- 消防費……………消防組合・消防団の運営にかかる経費や、防災にかかる経費
- 農林水産業費…農林業振興のための経費や、農道などの維持や整備にかかる経費
- 議会費……………町議会の開催や運営にかかる経費
- その他……………災害復旧費・予備費など

【歳入項目の説明】

- 自主財源……………町が自主的に集めることができるお金
- 依存財源……………国や県から交付されるお金や町債
- 町税……………皆さんに納めていただいた町民税や固定資産税など
- 繰入金……………積み立てておいた基金を取り崩して一般会計に受け入れたお金
- 分担金および負担金…町が行う特定の事業によって利益を受ける人から徴収されるお金
- その他（自主財源）…町の施設の使用料や証明書の発行手数料、預金利子や前年度からの繰越金など
- 地方交付税……………全ての市町村が一定の住民サービスを実施できるように国が交付するお金
- 国庫支出金……………事業を行うために国が交付するお金
- 県支出金……………事業を行うために県が交付するお金
- 町債……………道路や小・中学校などの社会資本を整備するための借金
- その他（依存財源）…国から配分される地方譲与税やゴルフ場利用税など

より約8億7000万円増加しました。また、熊本地震で被災した家屋の軽減措置がほぼ終了し固定資産税が増加したことなどで、町税は約3000万円の増収となっています。

■歳出

一般会計歳出の決算額は、約88億2000万円で、前年度比で約8000万円の減少となりました。

ふるさと納税の返礼品などの経費は増加したものの、熊本甲佐総合運動公園や住宅建替の事業が3年度にほぼ完了したことにより支出が減少しました。

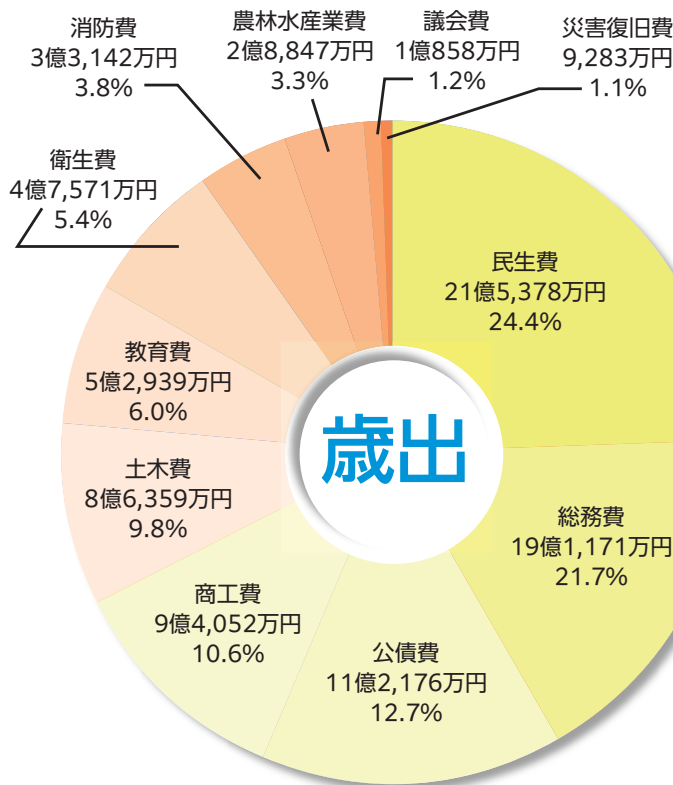
当該年度の歳入額と歳出額の差額から翌年度の繰越額（事業の繰越しで翌年度に使う経費）を差し引いた実質収支額は、約9億4000万円の黒字となりました。

〔令和4年度の事業（一部抜粋）〕

- ・がんばれ妊産婦応援給付金
- ・子ども医療費無償化
- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業
- ・新規就農者への農機具等の補助
- ・ふるさと応援チケット発行事業
- ・道路新設改良事業
- ・町営住宅建替事業
- ・陣ノ内城跡保存活用計画策定事業
- ・総合運動公園整備事業

一般会計

歳出



経済対策の実施や子ども医療費無償化の拡充
 ……
 新型コロナウイルスに対する感染対策、経済対策に約2億9000万円を支出しました。子ども医療費無償化を高校3年生まで拡充し子育て世帯の負担軽減を図りました。道路の改良や消防団員の処遇改善を行い、安全・安心なまちづくりを進めました。

※「地方財政状況調査」に基づき作成

財政健全化判断比率

財政状況は「健全段階」

令和4年度の実質的な赤字や将来負担などに係る指標「健全化判断比率」をお知らせします。甲佐町はどの指標も国が定める早期健全化基準以下で良好な状態にあります。

(単位：%)

区分	本町の健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	15.0	20.0
連結実質赤字比率	—	20.0	30.0
実質公債費比率	6.7	25.0	35.0
将来負担比率	—	350.0	—

※本町では、「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」は、一般会計および特別会計で赤字額がないため比率はありません。「将来負担比率」は、将来負担がないため比率はありません。

特別会計

安定的な運営を継続

特別会計は一般会計と区分し、特定の収入と支出で経理を行う会計です。令和4年度は多くの特別会計で、安定的な運営をし、黒字決算となりました。

(単位：万円)

特別会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
国民健康保険事業	15億4,803	15億1,062	3,741
介護保険事業	16億5,971	15億9,279	6,692
後期高齢者医療事業	1億7,940	1億7,827	113
上水道事業(収益的)	1億6,954	1億5,849	1,105
上水道事業(資本的)	572	9,896	▲9,324

※上水道事業(資本的)の差引額の▲(マイナス)は、留保資金などで補填するため赤字ではありません。